

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 6 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K14894

研究課題名（和文）ウェルビーイング概念に基づく家の主観的幸福尺度の開発

研究課題名（英文）Development of Home-Related Subjective Well-Being Scale Based on the Well-Being Concept

研究代表者

有馬 雄祐 (Arima, Yusuke)

九州大学・人間環境学研究院・助教

研究者番号：80830041

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、経済協力開発機構による主観的幸福度（SWB）の定義を基に、「家の満足」「家での感情」「家もたらすエウダイモニア」の3領域を想定した家が関連する主観的幸福（家のSWB）尺度の開発である。文献調査やアンケート調査を基に家のSWBの構成概念や測定形式を検討し、家のSWB尺度を開発した。想定した家のSWBの3因子モデルは統計的に高い適合度がある。家のSWBを関連要因で分析して、家のSWBは各領域で決定要因が異なる事や人生全般のSWBへの影響を明らかにした。開発された家のSWB尺度により、従来の住環境評価手法では測定が困難である居住者のSWBに寄与する住環境の要因の分析が可能になった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年のウェルビーイング研究の知見を住環境評価に応用する萌芽的な試みとして、家のSWBの構成概念を検討し、家のSWB尺度を開発した。開発した尺度は住環境評価で使用でき、家のSWBに関する基礎的な知見は家のSWBを測定する他の研究にも有用である。「住居満足」を指標とする従来手法では、「広さ」など認知的な側面に影響が強い要因の重要性が過大評価され、「共有スペース」など感情やエウダイモニアに寄与する要因が過小評価される事が明らかにされた。本研究で家の主観的幸福の測定手法が確立され、認知的な「住居満足」のみでは測定が困難であった居住者のウェルビーイングに寄与する多様な住環境の要因の分析が可能になった。

研究成果の概要（英文）：The main aim of this study is to develop a home-related subjective well-being (SWB) scale. Referring to the OECD's definition of SWB, we defined the home-related SWB in three domains: home satisfaction, emotion at home, and eudaimonia derived from home. We confirmed that an assumed three-factor model of the home-related SWB has high statistical fitness. By analyzing scores of the home-related SWB with home-related factors, we found that determinants of the home-related SWB differ in each domain, and the influence of the home-related SWB on occupant's SWB in life. Conventional evaluation methods, which use housing satisfaction as a subjective index of housing quality, make it difficult to analyze various factors of the housing environment that contribute to residents' SWB in life. The development of a method for measuring the home-related SWB in this study makes it possible to analyze various factors of residential environment that contribute to increase occupants' well-being in life.

研究分野：Architectural environmental engineering

キーワード：家 主観的幸福 ウェルビーイング 健康 住居満足度 住環境評価

1. 研究開始当初の背景

ウェルビーイング (well-being) が経済学やポジティブ心理学を中心に、科学の多様な領域における重要なテーマとなっている。人生における「よい状態であること」を意味するこの概念は、「主観的幸福」(SWB: subjective well-being) を含む点に最大の特徴がある。SWB とは、私達が幸福と呼んでいる人生における良い精神状態を測定可能なものとして、科学的に再定義した概念である。近年ではウェルビーイングという概念のもと、ポジティブな主観的経験を測定するための技法の洗練化が進み、幸福に関する実証的な知見が蓄積され始めている。建築学においてもウェルビーイング概念への関心は高まっており、アメリカでは「WELL 認証」、日本では「CASBEE ウェルネスオフィス」が開発されるなど、ウェルビーイングに関連する建築環境評価の試みがある。しかし、建築学におけるウェルビーイングへの関心は、近年のウェルビーイング研究の知見が十分に反映されてはならず、主観的幸福 (SWB) が本格的に考慮されていない。

SWB には「人生満足」と呼ばれる認知的な側面だけでなく「幸福感」と呼ばれる感情的側面があるなど、その構造は多次元的である。家が関連する主観的幸福 (以降、「家の SWB」) も家に対する満足だけでなく、家に居る際の幸福感、或いは家の所有による自尊心の増進など、多次元的な構造があるものと推察される。しかし、従来の住環境評価手法が主に着目しているのは「(住居) 満足度」であり、その他の領域は十分に考慮されていない。人は人生の大半の時間を家と係わりながら過ごすため、家の SWB が人生全般のウェルビーイングに与える影響は少なくないに違いない。高い SWB は健康を増進し、感情的側面は創造性とも密接な関係がある。SWB を考慮した住環境づくりは、居住者の健康や創造性、ないしは幸福を増進できる可能性があるため、家の主観的幸福の測定手法の確立は、住環境評価における重要な課題であると言える。

2. 研究の目的

本研究の目的は、家が関連する主観的幸福を測定する尺度 (家の SWB 尺度) の開発である (課題 1)。ウェルビーイング研究の知見や理論を基に家の SWB の構成概念を検討し、家の SWB 尺度を開発する。また、作成した家の SWB 尺度を用いて家の主観的幸福の解明を試みることも本研究の目的である (課題 2)。住環境評価に主観的幸福の概念を導入することで、従来の住環境評価手法では捉えがたい居住者の幸福 (ウェルビーイング) に寄与する住居の特徴や暮らし方が明らかにできると期待できる。本研究で「家」(home) という言葉を用いる理由は、家という概念は住環境の物質的側面のみならず、主観的 (或いは現象学的) な経験的側面がその意味合いに含まれているため、SWB を扱う本研究では「住居」ではなく家という言葉を用いている。

3. 研究の方法

(1) 課題 1 : 家の主観的幸福尺度の開発

本研究では、ウェルビーイング概念に関する知見や理論を基に、家の主観的幸福を測定するための尺度 (家の SWB 尺度) を開発する。家の主観的幸福とは、「居住者が家との関わりを通じて経験したり、行動したりして得られる主観的幸福の総称」であり、本研究では人生全般の SWB の多次元的な構造を基に、家の主観的幸福の概念を構成する。人生全般の SWB には「認知的側面」「感情的側面」「エウダイモニア的側面」の三つの異なる領域があり、『主観的幸福を測る OECD ガイドライン』¹⁾などで、各領域を測定するための技法が確立されている。家の主観的幸福の測定も人生全般の SWB と同様に、多次元的な側面を考慮する必要がある。本研究では、SWB の三つの基本的な側面を家の主観的幸福に対応づけて、「家の満足」「家での感情」「家もたらすエウダイモニア」の 3 領域を想定する (図 1)。「家の満足」は家の SWB の認知的側面であり、従来の「住居満足」と最も近い領域である。「家での感情」は、家に居る際に経験されるポジティブ感情とネガティブ感情であり、SWB への直接的な寄与が期待できる。また、「家もたらすエウダイモニア」は、「自尊心」など家を契機として促進されるエウダイモニアである。各領域を構成する概念は、既存の主観的幸福尺度の調査、家が関連するウェルビーイングの文献調査、及び Web 調査会社を介した意識調査の結果等を参考に検討する (2022 年度)。最終的な項目の選定、及び尺度の信頼性・妥当性の検証は Web 調査会社を介したアンケート調査の結果を基に実施する (2021 年度、2021 年度)。

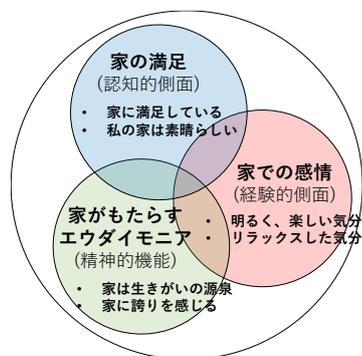


図 1 家が関連する主観的幸福の 3 領域

(2) 課題 2 : 家の主観的幸福の関連要因の分析

家の主観的幸福の各領域は、それぞれが住環境の異なる要因と関係性があると推察される。開発した家の SWB 尺度を使ったアンケート調査を実施して、居住者の属性、住居の特徴、住まい方等から家の主観的幸福を分析する。

4. 研究成果

(1) 家の SWB 尺度の開発

「家の満足」「家での感情」「家もたらすエウダイモニア」の各領域を構成する概念を検討するに際して、既存の主観的幸福尺度の項目の収集、家に関連するウェルビーイングの文献調査³⁾、Web 調査会社を介した意識調査、及び項目選定のためのアンケート調査を実施した。特に、エウダイモニアには「意味」「関与」「有能感」など多様な心理学的な概念が含まれるため、「家もたらすエウダイモニア」の構成概念の決定が課題となる。文献調査等から「美の経験」「愛着」「居場所」といった家に特有な SWB の要素が確認され、これらの要素の多くが統計的には「家もたらすエウダイモニア」に含まれる事が示唆された（2021 年度）。家に特有な SWB の要素も含めて、構成概念を検討するためのアンケート調査を実施した（2022 年度）。結果、「家もたらすエウダイモニア」は「意味」「自尊心」「関与」「達成」「美の経験」の概念で構成される領域である事が確認された。「家の満足」「家での感情」の領域においても、人生全般の SWB 尺度やアンケート調査の結果を基に構成概念を決定した。

家の SWB は各領域で適切な質問形式が異なる可能性がある。特に、「感情」は強度よりも頻度で測定する方が信頼性・妥当性が高いという報告があるが、「家での感情」の測定に適した形式を判断する必要がある。そこで、家の SWB 尺度の質問形式等の基礎的な検討のためのアンケート調査を実施した（2021 年度）。「家での感情」は「頻度」で測定した場合、住居の特徴や暮らし方などの関連要因との相関が小さくなる等の理由から、「当てはまり」形式を採用した方が関連要因との相関も強く、適切な質問形式であることを把握した。

開発した家の SWB 尺度は、「家の満足」は「満足感」「相対評価」「理想」「要求充足」に関わる項目、「家での感情」は「全般的」「覚醒」「非覚醒」のポジティブ感情・ネガティブ感情に関わる項目、「家もたらすエウダイモニア」は上述の概念に関わる項目で構成される。表 1 に首都圏在住の 2000 人の回答者による家の SWB 尺度の項目の因子分析の結果を示す。家の SWB の 3 因子モデルは高い適合度がある。

表 1 家の SWB 尺度の項目の因子分析（最尤法, Quartimin）

	家での感情	家もたらすエウダイモニア	家の満足
この家では、くつろいだ、リラックスした気分です	0.905	-0.056	-0.008
この家では、居心地がよい	0.848	-0.085	0.096
この家では、疲労感が癒される	0.743	0.159	0.004
この家では、明るく、楽しい気分です	0.674	0.209	0.044
この家では、ストレスが解消される	0.664	0.217	0.039
この家を作り変えていく達成感を味わっている	-0.077	0.818	0.006
この家は私の生き甲斐の源泉である	0.122	0.775	-0.006
この家に住んでいることに達成感を感じる	0.056	0.752	0.096
この家では、自分自身に対して誇らしい気持ちでいられる	0.173	0.739	0.014
この家がつくりだす景色に感動する瞬間がある	-0.007	0.720	0.087
大体において、私の家は理想的である	0.032	-0.059	0.914
私の家は、私に求める全ての機能を備えている	-0.065	0.092	0.819
同世代の人たちの家と比べて、私の家は素晴らしい	-0.043	0.113	0.733
私は、自分の家にとっても満足している	0.287	-0.049	0.667

(2) 家の SWB と関連要因の関係性

重回帰分析等の統計モデルにより、家の SWB は各領域でそれぞれ異なる決定因子がある事を明らかにした³⁾。「家の満足」は「広さ」「設備・衛星」など住居の物理的特徴からの影響が強く、「家での感情」は「風通し・日当たり」「プライバシー」など、より感覚的な住居の特徴からの影響を強く受ける。「家もたらすエウダイモニア」は、「窓の眺望」「共用スペース」などの住居の特徴からの影響が強く、また「インテリアへの拘り」といった主体的な住まい方との関係性も強い。「人間関係」との関係性では、「同居人との人間関係」は「家での感情」、「近隣住人との人間関係」は「家もたらすエウダイモニア」の領域とそれぞれ強い関係性がある事を確認した。

同様に、家の SWB と人生全般の SWB の関係性を明らかにした⁴⁾。家の SWB の各領域はそれぞれ対応する人生全般の SWB の領域との関係性が強い。また、居住者の主観的健康感と最も関係性が強い領域は「家での感情」である事を確認した。また、「家での感情」と「家もたらすエウダイモニア」は「家の満足」以上に人生全般のウェルビーイングとの関係性が強く、家は多様な経験的側面を介して人生全般のウェルビーイングを増進し得る事を確認した。

(3) 学術的意義や社会的意義

本研究は、近年のウェルビーイング研究の知見を住環境評価に応用する萌芽的な試みとして、家の SWB の構成概念を検討し、家の SWB 尺度を開発した。開発された家の SWB 尺度は様々な住環境評価の研究で使用することができるだけでなく、本研究で得られた家の SWB に関する基礎的な知見の数々は、他の研究者が家の SWB の研究を行う際にも有用である。

住環境評価で一般的な「住居満足」のみを指標とした場合、住居の質を高める要因として「広さ」や「設備」といった認知的な領域に対する影響の強い要因が過大に評価され、感情やエウダイモニアの領域に影響が強い住居の要因（例えば、「共有スペース」など）の重要性が過小評価される事が明らかにされた。本研究により、家の主観的幸福の測定手法が確立されたことで、認知的な「住居満足」のみでは測定が困難であった、居住者のウェルビーイングに寄与する多様な住環境の要因の分析が可能になったと言える。

引用文献

- 1) OECD: OECD Guidelines on Measuring Subjective Well-being. OECD Publishing, 2013
- 2) 松井晴子, 村角創一: 建築家が建てた 50 の幸福な家, エクスナレッジ, 2010
- 3) 有馬雄祐: ウェルビーイング研究に基づく家に関連する主観的幸福とその決定要因, 日本建築学会環境系論文集, 86, 785, 680-691
- 4) Arima, Y. et al.: Measuring of home-related subjective well-being and its impact on overall happiness in life, poster presentation, The 13th Nordic Public Health Conference, Reykjavik, Island, 2022

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 有馬雄祐	4. 巻 86
2. 論文標題 ウェルビーイング研究に基づく家が関連する主観的幸福とその決定要因	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本建築学会環境系論文集	6. 最初と最後の頁 680 ~ 691
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3130/aije.86.680	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有馬雄祐, 藤田紀勝	4. 巻 69
2. 論文標題 技能五輪選手における技能を源泉とする主観的幸福がウェルビーイングに与える影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 工学教育	6. 最初と最後の頁 5_73 ~ 5_77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4307/jsee.69.5_73	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 有馬雄祐, 橋本幸博	4. 巻 77
2. 論文標題 背景音楽が創造性を高める可能性 - 遠隔連想テストによるBGMが創造性に与える影響評価、及び創造性促進のメカニズムについて-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本音響学会誌	6. 最初と最後の頁 256 ~ 261
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20697/jasj.77.4_256	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Yusuke Arima, Manjo Shimahara, Masahumi Hashiguchi, Naoko Yoshinaga
2. 発表標題 Happiness, tolerance, and population dynamics of 47 prefectures in Japan
3. 学会等名 The 10th European Conference on Positive Psychology, Reykjavik, Island (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yusuke Arima, Jun Munakata, Hiromi Itami, Kazuya Horike
2. 発表標題 Measuring of home-related subjective well-being and its impact on overall happiness in life
3. 学会等名 The 13th Nordic Public Health Conference, Reykjavik, Island (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中田悠介, 有馬雄祐
2. 発表標題 建築のウェルビーイングに関する研究(その7) 「家で幸せを感じる瞬間」のテキストマイニングによる分析
3. 学会等名 2022年度日本建築学会大会(北海道)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 牧野相悟, 有馬雄祐, 橋本幸博
2. 発表標題 創造的環境に関する研究(その1) 創造的パーソナリティと学習の集中・没頭に求められる物理的空間の関係性
3. 学会等名 2022年度日本建築学会大会(北海道)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 有馬雄祐
2. 発表標題 建築のウェルビーイングに関する研究(その6) 家が関連する主観的幸福に対する持家の影響、及び持家/賃貸の志向性によるその違い
3. 学会等名 2021年度日本建築学会大会(東海)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 有馬雄祐
2. 発表標題 ポジティブ心理学の住環境評価における応用 - 家が関連する主観的幸福とその決定要因 -
3. 学会等名 日本心理学会大会 - ポジティブ心理学：応用研究の最前線（2） - （招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 有馬雄祐, 橋本幸博
2. 発表標題 建築のウェルビーイングに関する研究（その5）家の主観的幸福（SWB）の家のハード面・家の住まい方・交流実態による分析
3. 学会等名 2020年度日本建築学会大会（東海）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 濱野圭章, 金正和, 有馬雄祐, 和田浩一
2. 発表標題 入居者が幸せに暮らせる高齢者施設の特性（その1） - 評価グリッド法による居室の認知構造の抽出 -
3. 学会等名 2020年度日本建築学会大会（東海）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------